

KYUSHU DESIGN CHARRETTE 2018 REPORT

社会基盤あるいは日々の生活空間を形づくる仕事に携わっている誰もが、人々の暮らしを安全に、快適に、さらには豊かにできるよう機能的で美しい環境を作り出したいと願っている。

これからの計画・設計の現場では対象とその周辺環境を総合的に捉えて解決方法を考えていく必要があり、土木、都市計画、環境、建築、ランドスケープなど様々な分野の専門技術者が力を合わせて仕事することが求められる。

しかし、そのような体験ができる機会や教育課程は現在ごく限られた場所で行われておらず、若い世代は異分野を学ぶ者と共同作業する体験、それによって得られる新たな知識や視点を欲している。

一方、九州には美しい自然環境や歴史資源を背景とした多くのまちづくり活動、建設プロジェクトが進行中である。NPO などを通じてまちづくりに関心を持つ人々も多い。



九州デザインシャレットとは

九州デザインシャレットは以上の背景を踏まえて、将来まちづくりや建設分野に携わる様々な専門分野の学生・若手技術者を対象に、実際のまちづくりの課題に集中して取り組む機会を提供し、専門家の指導の下で、異分野との共同作業を体験させ、現代の要請に適った人材を育成することを目的とする。

加えて、この体験を通じてその後も切磋琢磨しあえる仲間と出会い、その人的ネットワークが九州、全国に広がっていくことも、これからの九州、日本の美しい風景を守り、新たな文化価値を生むための大きな力となるはずである。

また、地元で進められているまちづくりの取り組みに対しての話題提供となることも期待できる。

*シャレットとは：シャレット（charrette）は仏語で「荷馬車」という意味です。仏の大学生が設計課題の提出日に荷馬車に図面を積んで学校に来る様子から、短期間に集中的に行う演習を意味するようになったと言われています。



テーマ / 課題 まち、人をつなぐ公共空間をデザインする

近年、にぎわいづくりや居場所づくり、健康増進、地域防災力の向上等、様々な観点から、これまでの概念や制度の枠を超えて、道路、河川、公園、広場等の公共空間を積極的に利活用し、心地よい時間と多様な交流を生み出すことで、都市や地域の価値を高める取り組みが増えている。公共空間の計画、設計、施工、運用に携わる専門技術者には、こうした新しい時代の価値観に対応した能力が求められている。

本演習では「まち、人をつなぐ」をテーマとして、長崎市において実際に進められている公共空間整備を題材として、デザイン提案を試みる機会を設けた。

対象地 新市庁舎前広場・魚の町公園およびその周辺

長崎市では、平成 34 年度の長崎新幹線開業効果を高め、まちなか全体の活性化を実現するために、長崎駅とまちなか（寺町・中島川地区）をつなぐ回遊動線の強化に取り組んでいる。その一環として平成 34 年度オープン予定の長崎市新市庁舎前の広場と、その向かいに位置する市民会館前の魚の町公園の整備を検討している。

本設計演習では、こうした背景をうけて新市庁舎前広場・魚の町公園およびその周辺のあり方を検討し、模型等を製作して具体的なデザイン計画を提案することを課題とした。

【課題製作物：全体計画図（1/500）、対象地計画図（1/200）、提案模型（1/200）】

指導講師

ゲスト講師



山下裕子
ひと・ネットワーク
クリエイター
広場ニスト

新市庁舎設計チーム



(左から)
箴島 亮 山下設計
吉村純一 プレイスメディア/
多摩美術大学教授
女鹿裕介 プレイスメディア

風景デザイン研究会（風研講師）



柴田 久
福岡大学 教授



田中尚人
熊本大学 准教授



星野裕司
熊本大学 准教授



高尾忠志
九州大学 准教授
長崎市景観専門監



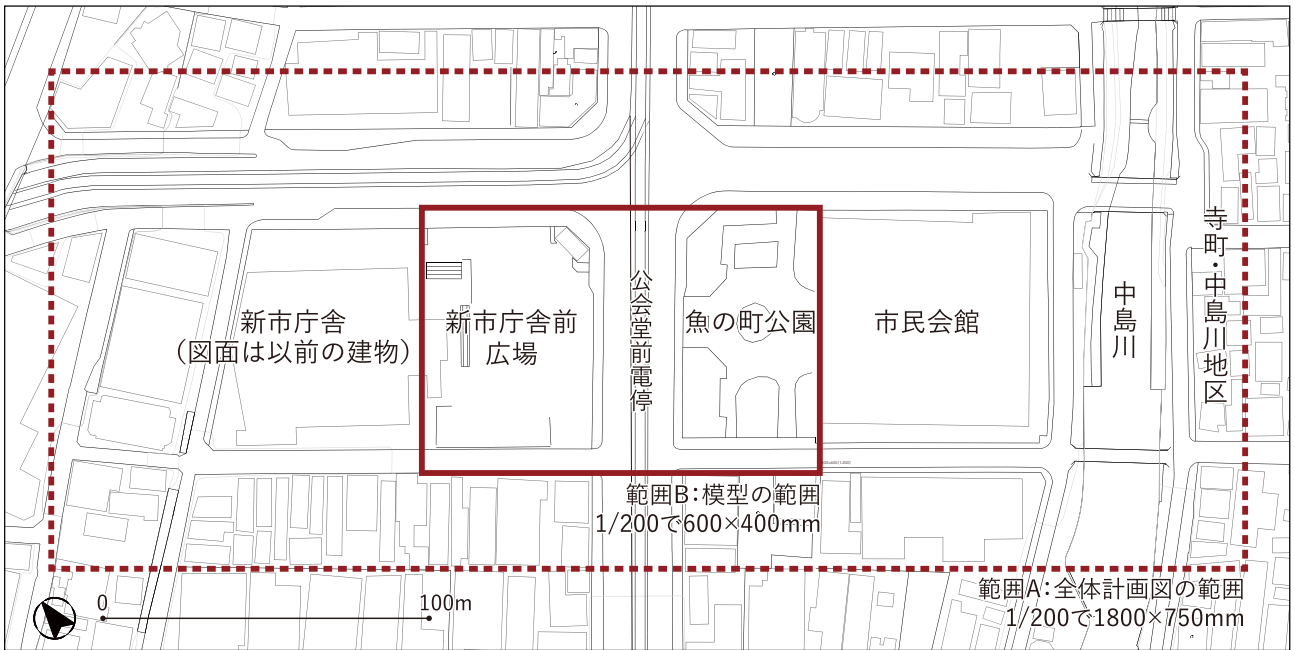
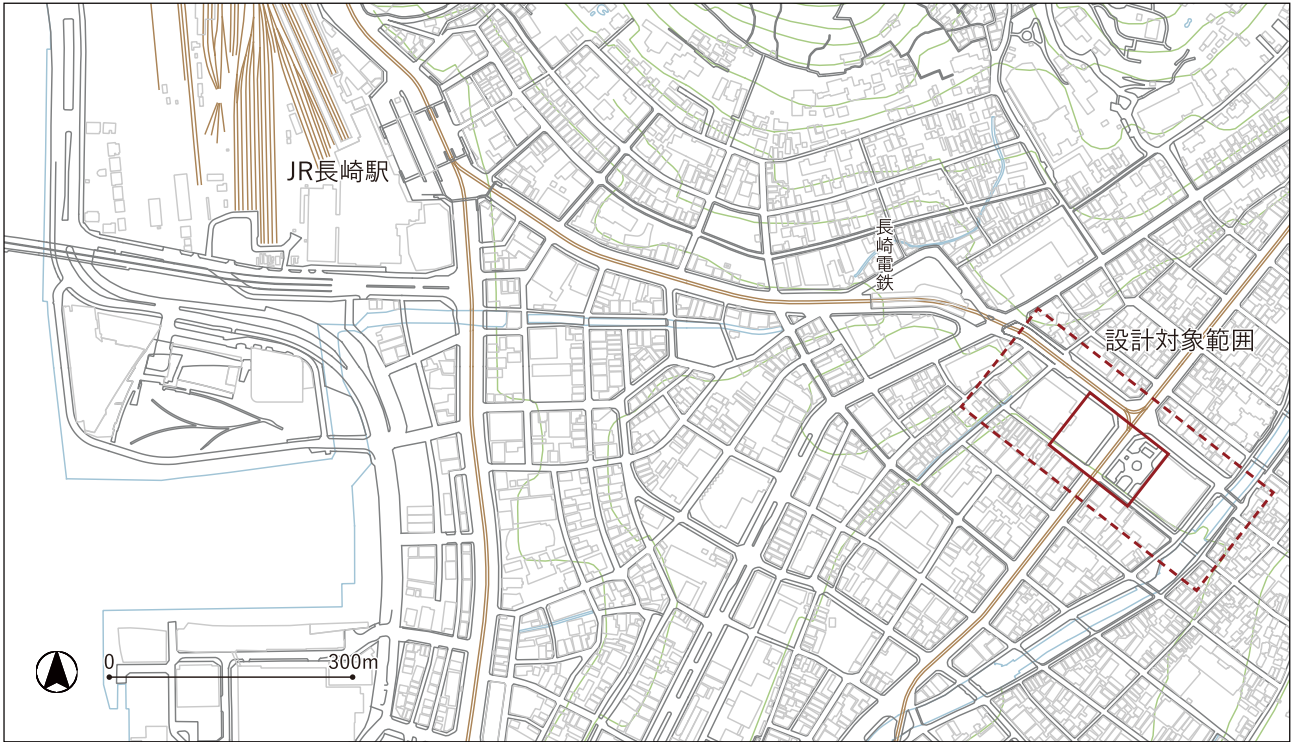
石橋知也
長崎大学 准教授



増山晃太
風景工房
熊本大学 研究員



池田隆太郎
福岡大学 助手



設計対象範囲



1. 新市庁舎
2. 北側通り
3. 魚の町公園
4. 中島川
5. 寺町・中島川地区
6. 電鉄

現地写真

プロセス

8/27 -Day.1-

13:30 ~

山下氏によるレクチャー「まちなか広場とは」



14:30 ~

現地調査 / ブレーンストーミング



18:00 ~

講師によるエスキス



20:00 ~

懇親会



8/28 -Day.2-

9:00 ~

星野氏によるレクチャー「デザインコンセプト」



10:00 ~

コンセプトメイキング



13:30 ~

柴田氏によるレクチャー
「デザインアプローチについて」



14:30 ~

コンセプトメイキング / デザインスタディ



18:00 ~

講師によるエスキス



~ 20:00

コンセプトメイキング / デザインスタディ



8/29 -Day.3-

9:00 ~
吉村氏によるレクチャー「風景を調える」



10:00 ~
デザインスタディ



17:30 ~
講師によるエスキス



~ 20:00
デザインスタディ



8/30 -Day.4-

9:00 ~
講師によるエスキス



~ 14:00
プレゼン準備



14:00 ~ 17:00
最終講評会 / 表彰式 / 集合写真



最終講評会



評価の視点

- ◇都市における広場のあり方・・・長崎のまちにおける対象広場の役割がよく考察されていて、それに対応した空間デザインや運営イメージが提案されているか
- ◇デザインの地域性、魅力・・・長崎のまちにふさわしい魅力的なデザインが提案されているか
- ◇提案の新規性、独創性・・・公共空間の現状を打破するような新しい、チャレンジングな提案がされているか
- ◇プレゼンテーションの質・・・時間内に、わかりやすく、自分たちの提案を伝えることができたか
計画図や模型がわかりやすくつくられているか



A 班 「はみださんば」

鈴木日奈子 田中 咲 原田大史 松野祐太 仲摩純吾 福島 望



読み解き

- ・動線調査の結果、まちなか軸は人通りが多い
- ・新庁舎や市民会館では様々な利用者が存在
- ・広場を通過する人は多いが、広場自体には少ない
- ・まちなか軸と広場を結ぶ動線の見通しが悪い

方針

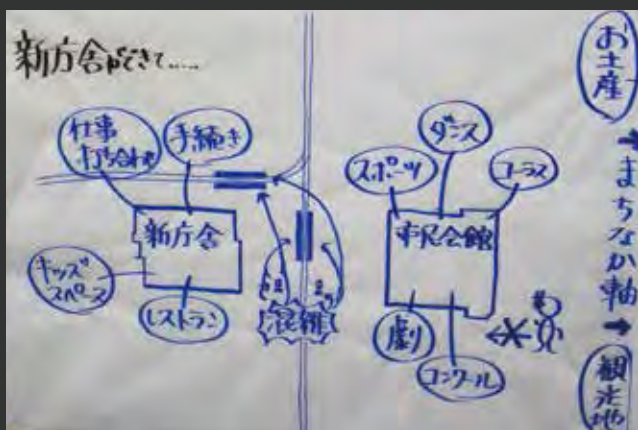
対象地の長崎らしさ → 今ある市民の活動

①新庁舎 ②市民会館 ③まちなか軸 (三場)

各機能のはみだし

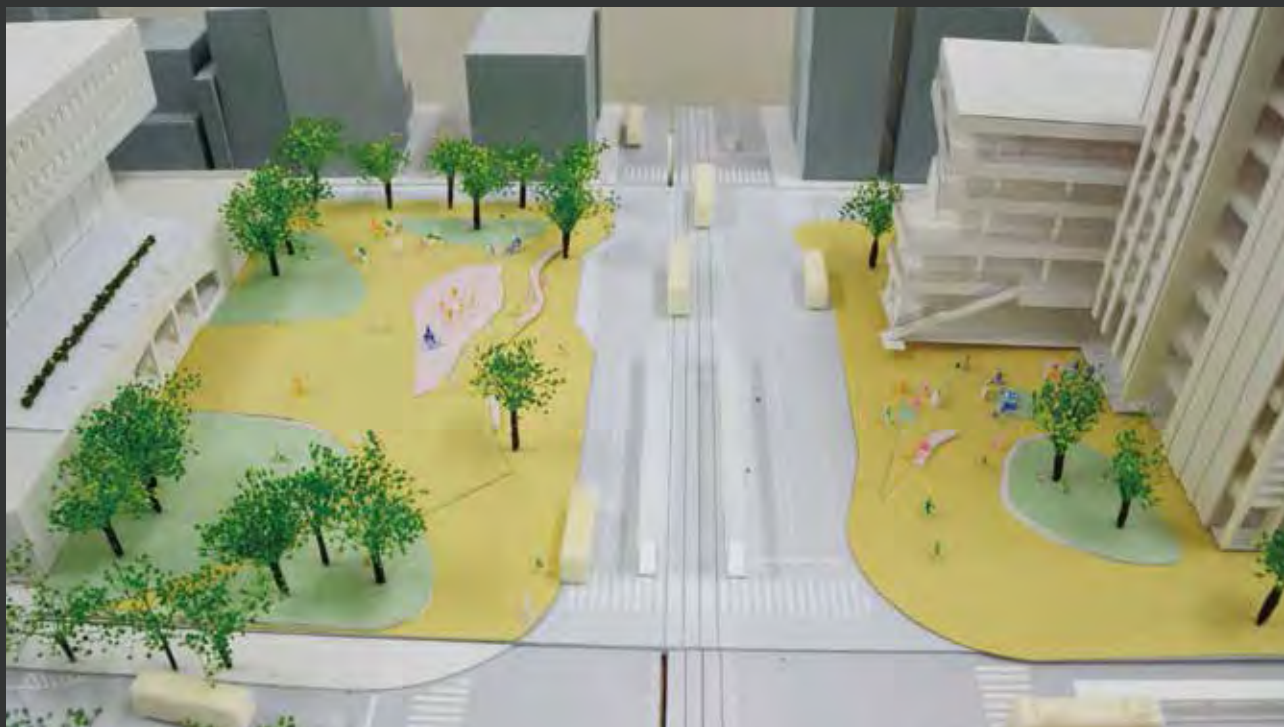
⇒ 同じ場所で色々な行動をする人が重なることで
新たな価値がうまれないか

※「はみださんば」は「はみださない」との長崎弁



デザイン

- 市役所の手続き待ちや食事、ワークショップ等の活動をはみださせるよう意図したデザイン。
- レンガ（ピンク）の所はくんちや室内で行われているダンス等の練習場所に。動線とバス待ちを結んだ位置につくことで、はみだしを重ねる。
- 市民会館南側通りを一方通行にし歩道を拡幅。
チャレンジショップや植栽を配置し、まちなか軸の文脈を踏襲し、広場へ人を自然に引き込む。



B 班 「軸とワンド（湾処）」

風研講師賞

内野絢香 狩野莉子 筒井正幸 光野育恵 板部奈津希 鮫島将太



読み解き

新市庁舎北側の通りについて

- ・東西の視線がきれいに抜けて山が見える
- ・電鉄が走り、人や車の多い通りである
- ・通りの東側にある寺町・中島川地区には観光客の訪れる商店街や眼鏡橋がある

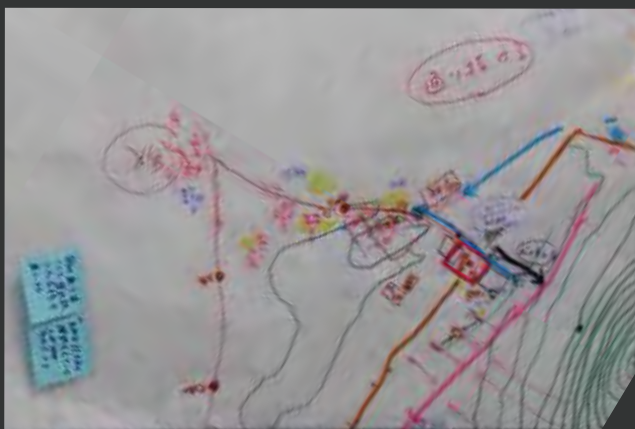
方針

新市庁舎北側の通りを大切にしたい軸として設定 & 広場を一体としたワンド

→軸の流れの受け皿となるたまりの場所に

→滞在時間の異なる人を想定した空間とする

様々な行為をする人が常にいる風景の創出と新市庁舎北側の軸の強化

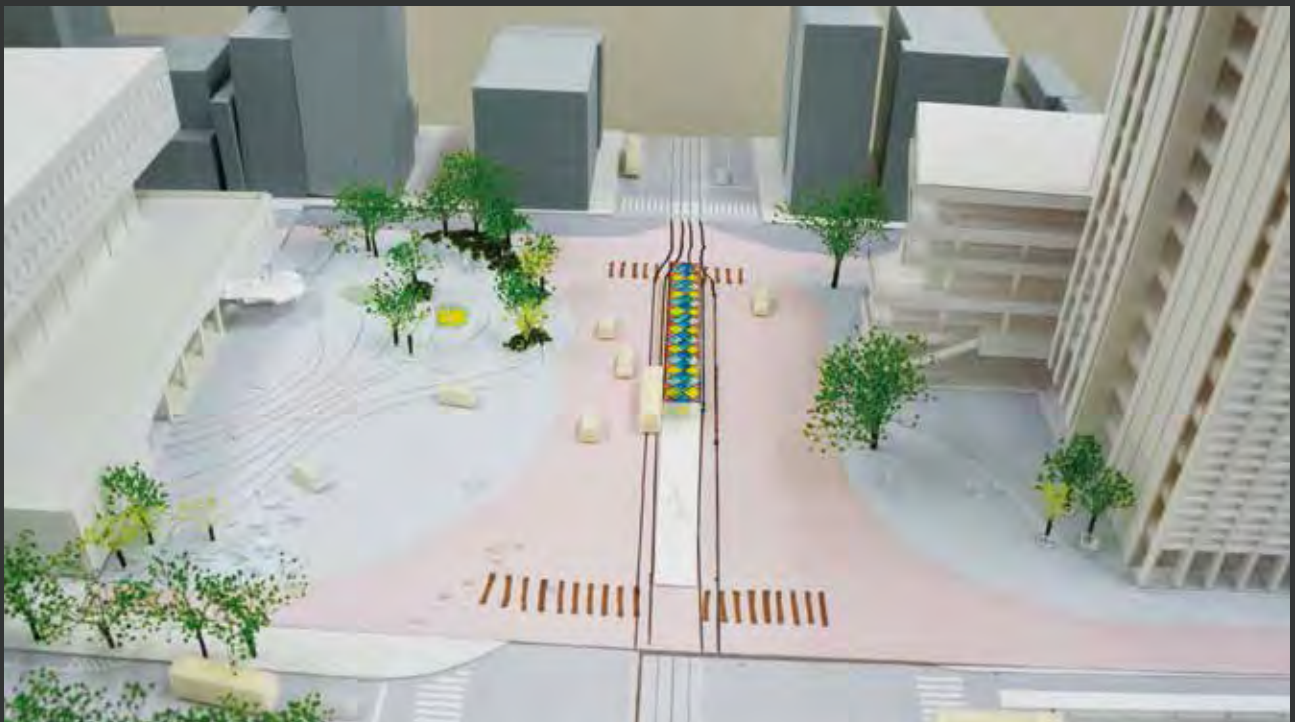


デザイン

○電鉄の停留所を南側交差点まで延長し、屋根を設けゆったり休める空間に。さらに2つに分かれている今の電停を1つにまとめ、壁をなくす。

○開けた場にするため段差を意識した設計。車道からフラットに繋げ、一体的な利用を可能に。

○ワンドの最も窪んだ部分はゆっくりとした時間が流れるよう、木々が生い茂っている静かな空間。



C班「まちを編みなおす」

赤山紗也果 秋山実都紀 大石銀司 谷水 錬 金城 樹 前田 夢



読み解き

- ・山や海に囲まれている円形劇場型の地形
- ・対象地周辺には南北に延びる主要な4つの軸が存在
(交通、水辺、商店街、神社のある通り)
- ・一方で上記4つの軸をつなぐ東西の道は歩いてみたいというつくりになっていない

方針

縦（南北）の糸に対して横（東西）の糸を編みなおすことで、生活・歴史・自然を繋げていく
まち全体を歩いてまわる、寄り道をするといった豊かな時間が生まれませんか



デザイン

- 北側交差点を市民会館側へ渡った人を受け止めることのできるロングベンチの設置。ここから市民会館南側に導くような配置とデザイン。
- まちなかにある花壇（プランター）を連続させることで歩いてみたくなる仕掛け。
- 道の両端（広場南北側）にも人が溜まる空間をつくり（キッチンカーやパラソル、時計台など）他の軸からもこの広場に行きたくなるようにする。



D 班 「まちの中継点」

新市庁舎設計チーム賞

山下裕子賞

諫山裕生

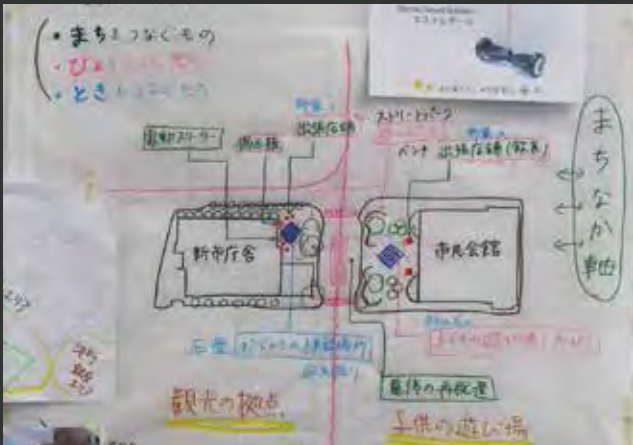
河北咲良

河野祐子

辻 左介

梶川遥奈

山下大貴



読み解き

- ・対象地は「まち・ひと・とき」の3つの間を取り持つ
- ・陸と海の玄関口から来た人や公共交通が重なる、また観光地である寺町・中島川につなぐ中継点
- ・観光客と住民、住民と住民、多世代をつなぐ中継点
- ・対象地はくんちの広場であったこと、町屋があったことから「ハレとケ」「歴史」をつなぐ中継点

方針

地元の人にとって憩いの場に、そして見る見られる関係を生み、子供も安心して遊べる場に観光地としてここが拠点となることで寺町・中島川への中継点となると共に、長崎全体の観光の起点到

デザイン

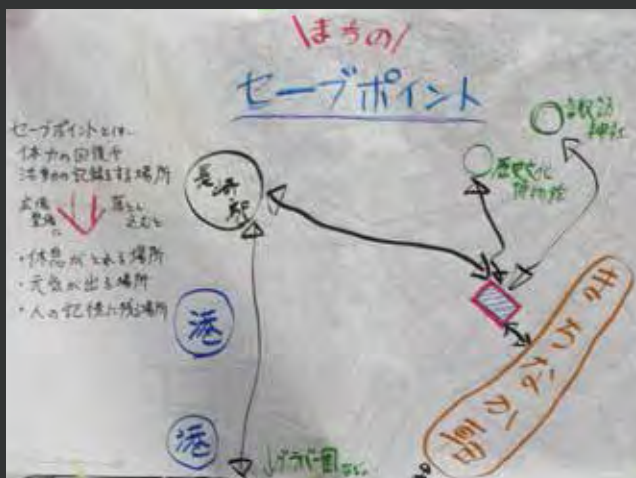
- 観光のためのみんなで書き込んで作る掲示板、町屋をモチーフとした出張仮設店舗、貸し出し用電動スクーターを設置。
- 既存樹木と動線を考慮したロングベンチの曲線。さらにバス待ちや休憩での利用、子どもが高低差を駆け回るようにベンチならびにその周辺をデザイン。地下駐車場からの出口も設ける。



E班「まちのセーブポイント」

長崎市役所賞

池田昌弘 大田菜央 大森真央 佐藤麻美 近藤美沙希 長池太郎



読み解き

- ・ まちなか軸に近く、長崎駅からまちなか軸の中間点
- ・ バスの停留所もあり結節点でもある
- ・ 市民はここに公会堂があったことを記憶している

方針

セーブポイント

体力の回復の面では休息がとれ、元気が出る場所
活動の記録の面では人の記憶に残るような場所
道路を挟んだ2つの広場をそれぞれ静と動に

→市民会館側は現在の建物内における活動内容や中島川があることを踏まえ自然豊かな静的な広場に

→新庁舎側はくんちの練習やイベントをしやすいこと、人通りが多くなることを想定し動的な広場に



デザイン

- 市民会館側は現在の緑豊かな樹木を活用し、森の中にいるような空間に。動線を考えた通路や木々の間から見える向こう側のわくわく感を創出する。
- 新庁舎側は子どもが走り回る、イベント実施、マルシェの開催、観光案内を行う等、一体的な利用を目指した広場に。



受講生の声

A 班



鈴木日奈子

(長崎大学 ランドスケープ・アーキテクチャ・デザイン研究室)

このようなワークショップに参加するのは初めてでしたが、初日に行われた講義の時点ですごく貴重なワークショップに参加できたのだと強く感じました。日頃受けることのできない講義内容でデザインに関して大切なことは何かや視点をどうすべきかなどかなり深く教えて頂き、今後のプロジェクトに非常に参考になると思いました。



田中 咲

(法政大学大学院 都市環境デザイン工学専攻景観研究室)

初対面の他大学の方と社会人の方と取り組めたこと、講師の方の講義やエスキスを受けられたこと、デザインを考える際のプロセスを学べたこと、土地勘のなかった地域の読み解き方に触れられたこと、朝型だったこと、短い時間で自分たちの考えを伝える訓練になったこと、良いことばかりでした！
長崎にこれたのもよかったです！スタッフの皆さんも優しかったです！



原田大史

(九州大学大学院 都市環境システム工学専攻景観研究室)

コンセプトや機能面まで考えたことがないことに気付けた。これまで自分が学んできたことは機能の表現方法やコンセプトの表現方法ばかりであり、今後なにを学ぶべきか明らかになった。
スタッフのみなさま、色々たワガママを聞いていただきありがとうございました！！



松野祐太

(東京大学大学院 社会基盤工学専攻地域／情報研究室)

豪華な講師陣、初めて会う人々との共同設計、時間をしっかりと区切ることが良かった。また、決められた時間内であるが故に、遠慮せず濃密な議論が可能になることを学んだ。
本当に楽しかったです。長崎が大好きになりました。可能ならまた参加したいです！



仲摩純吾

(株式会社オリエンタルコンサルタンツ 九州支店技術一部)

建築、土木、ランドスケープのそれぞれの考え方の微妙な違いが肌身で感じられてよかった。
スタッフ、講師の皆様、本当にお世話になりました。大変でしたが、すごく濃密で楽しい時間を過ごせました。今後の業務に活かせる学びも多くあったので、自らの血肉にしていければと思っています。



福島 望

(サンコーコンサルタント株式会社 九州支社技術部土木第一課)

事前資料が充実していて、対象地の読み解きをスピーディーに行うことができました。先生方の講義内容もとても有意義で、午前中の講義が午後のグループワークで設計に反映する際の参考になりました。
今回のシャレットでは、徹夜してもいいくらい素敵なテーマが生まれ、何時間でも話し合えるようなチームメンバーに出会えました。

**内野 絢香**

(有明工業高等専門学校 建築学専攻)

対象地の調査をするだけでもいろいろな視点があり、1人では気付けない点を多く吸収できました。限られた時間で、どうアウトプットしていくのか、させなければいけないのかということを考えさせられたし、グループ内での深い意識共有の大切さを学びました。学んだことを持ち帰って、研究の対象地を変えていきます！！

**狩野 莉子**

(早稲田大学 創造理工学部社会環境工学科)

広場のあり方、つくり方を様々な講師の方々から学ぶことができて良かった。作業中にアドバイスして下さる内容もとても勉強になった。ランドスケープや景観のデザインとしての学びが多く得られて満足です。ここでの出会いを今後も大切にできたらと思います。

**筒井 正幸**

(長崎大学大学院 工学研究科環境計画研究室)

自分とは違う立場や経験を持った人と時間をかけてじっくり談義できて良かったです。僕自身、設計や模型の作成を初めてやったので学ぶことが多かったです。今回、本当に参加できて良かったです。様々な人と出会い、学べたことを活かして今後に取り組みたい。

**光野 育恵**

(熊本大学大学院 土木建築学専攻景観デザイン研究室)

グループワークの進め方を学べたことが良かった。すごく仲良くなれたけど、良い意味でゆずり合う、引き立てあえるというチームビルディングには時間がかかってしまいました。この失敗体験、そしてその中で自分に何ができるか考えることができたのは、とても良い経験になりました。

**板部 奈津希**

(株式会社協和コンサルタンツ 東北支社都市整備部計画グループ)

チームでデザインをしていく過程で、分野や学年の違うみんなの個性を知ることができたり、自分が知らない分野の話を聞いてとてもよかった。自分も含め、みんなの得意なこと、苦手なことを知れて本当に良い経験になった。また来たいと思えるくらい素晴らしい機会でした。ちゃんと寝ることを推してもらえたのも良かったです！

**鮫島 将太**

(株式会社東京建設コンサルタント 九州支社)

デザインのプロセス、何を見れば良いのかを学びました。また、自分たちのコンセプトに沿ったアドバイスやアイデアを講師の方々にいただけた事が良かったです。シャレットに参加できたことで、景観の仕事に携わっていく気力、夢のようなものを取り戻すことができました。

C 班



赤山紗也果

(長崎大学大学院 ランドスケープ・アーキテクチャ・デザイン研究室)

とても充実した4日間になりました。チームでの活動も毎日学ぶことが多く、刺激を受けました。自分の実力不足や知識不足も改めて感じたので、今後のモチベーションにつながる機会となりました。学外でのランドスケープ系の活動に参加することに少し緊張していましたが、講師の先生方をはじめ、スタッフの皆さんの細やかな心遣いが有難かったです。



秋山実都紀

(徳島大学 理工学部社会基盤デザインコース)

あまり知識のない状態で参加していたので、ランドスケープの見方や模型の作り方、議論する時に各個人の注目する点が今後の自分の活動に生かしていけると感じました。また、エスキス時の先生方の意見は、今後プレゼンをしていく上ですごく役に立つと思いました。シャレットの経験を生かして、コンペなどに参加していきたいと思います。運営の仕方も学ぶことができよかったです。



大石銀司

(九州大学大学院 都市環境システム工学専攻流域システム工学研究室)

公共空間のデザインの際に、まち全体をみてその場所がどういう位置にあるのか、考えることの大切さがよく実感できました。グループのメンバーとの話し合いで、それぞれの考え方を聞くことがもっとも勉強になりました。賞をとれなかったことが素直に悔しいです。何が足りなかったのかをよく考えて、僕のシャレットはこれからはじまると思っていたかりベンジしたいです。



谷水 錬

(東京大学大学院 社会基盤工学専攻景観研究室)

限られた時間の中での敷地の理解、コンセプト決めの踏ん切りの良い経験となりました。また、日頃お会いすることのない先生方、考え方も経緯も違う人々との議論は非常に良い経験となりました。



金城 樹

(沖縄県 土木建築部都市計画・モノレール課景観形成班)

多様な学生がいるのでいろいろな意見・発想が出てきて得るものが多かった。また、講師やチューターの方が豊富で、1つの提案に対しても様々な意見があり勉強になった。4日間でよい経験ができました。



前田 夢

(日本工営株式会社交通都市事業部都市交通計画部)

朝型設定であること、作業中のチューターによるマメなフィードバックがありがたかった。有意義な研修でした。



諫山裕生

(福岡大学大学院 建設工学専攻景観まちづくり研究室)

多分野の意見を交えることの難しさ、自分のやりたいこと全てをやりきれないもどかしさも含めて学べることは大変多く、逆にそこから生まれる貴重な意見はとてもおもしろく感じた。
今回のつながりを大事にしていきたい。



河北咲良

(京都大学大学院 社会基盤工学専攻景観設計学研究室)

短期間で初対面の様々な分野の方とひとつの提案を完成させる難しさを学んだ。また、他の発表者の方や講師の方の意見が刺激的で勉強になった。
設計の仕事に就きたいと思っているので、技術の面はもちろんですが、チームをまとめる力や人に自分の思いを正確に伝える力をつけたいと思いました。



河野祐子

(千葉工業大学大学院 建築都市環境学専攻遠藤研究室)

大変だったが短いスパンで毎回結果を出すという作業が良かった。夜泊まれないなど、制限があったからこそ、濃密な時間になったと思う。
非常に楽しかったです。普段は聞き役ですが、いつもの100倍は話しました。
もしまた機会があればぜひ参加したいです！



辻 左介

(佐賀大学 経済学部経済学科戸田ゼミナール)

全てが初めての体験でした。シャレットを通して他分野の方と交流でき、とても充実した4日間でした。経済学部という自分の強みを生かせず反省です…。
ありがとうございました。



梶川遥奈

(中央復建コンサルタンツ株式会社)

広場をデザインするとき大切な視点や過程を学ぶことができたので良かったです。また時間がない中でチームで一体となって1つのことを考え抜き形にするこの難しさやおもしろさを感じました。
社会人になって現実的に考えることが増えてきましたが、自由な発想で熱く議論できる場があって楽しかったです。



山下大貴

(九州建設コンサルタント株式会社 南九州支店)

チームの仲間と密度の濃い議論ができてよかった。
社会人枠として、そして、自分が参加することでしか与えられない価値を発揮することができず、悔しさがあったが、飲み込めないくらい気づき、学びを、こんなに短期間に得られ、夢だったのかと思うような4日間だった。

E 班



池田昌弘

(熊本大学 工学部社会環境工学科)

普段学べない具体的なデザイン手法を学べたのが良かった。いつもやる、場の位置づけや歴史なども、どう見たら良いかを教えていただきとてもよかった。4日間、長崎で歩いて学んでとても楽しかったです！！



大田菜央

(愛媛大学大学院 生産環境工学専攻都市・地域デザイン研究室)

限られた時間の中で、どうにかして1つのものを生み出すということを体験できた。また、たくさん出る意見の中で、何を捨てていくか、という判断の難しさを経験できた。とてつもなく濃い4日間でした！！たくさん宿題ができたので、持ち帰って今後も引き続き勉強していこうと思います。



大森真央

(日本大学大学院 土木工学専攻永村研究室)

設計はもちろんのこと、地図に物を起こして物を作ることを行ったことがなかったので、どのようにハード面の事業が行われていくのか学ぶことができました。今後はまちを歩く際の視点を変え、ハード面にも気を付けていきたいです。



佐藤麻美

(京都造形芸術大学 ランドスケープデザインコース)

今までデザイン分野の業務に携わったことがなかったのですが、デザイン独自のプロセスを学ぶことができ、とても新鮮でした。また、普段はなかなか接する機会のない年代のメンバーとのコミュニケーション、今まで訪れたことのなかった長崎という町を知ることができたこと等、大変貴重な体験となりました。このような機会を与えていただき、とても感謝しています。どうもありがとうございました。



近藤美沙希

(大日本コンサルタント株式会社 中部支社地域環境計画室)

グループワークの合間の講義が作業の段階とマッチしていて学ぶことが多かった。チューターの方々の意見が的確で支えになり、短い時間の中でも自分たちの考えを貫く提案ができたと思う。また、山下さんの講義やコメントが楽しく、自分も楽しんでやることを大切にしようと思えました！学生時代には参加が叶わなかったシャレットに参加できて楽しかったです。



長池太郎

(株式会社建友社設計 設計部)

自分の専門外のことを多く学べた。また、先生方との間に入って頂いたチューターやボランティアスタッフの方々がいてよかった。大変貴重で有意義な時間を過ごせました。

学会発表

九州デザインシャレット 2018 in 長崎市の実施後には、12月7～9日に長崎市で開催された第14回土木学会景観・デザイン研究発表会にてポスター発表を行い、優秀賞を受賞しました。

九州デザインシャレット 2018 in 長崎市

2018年12月7日(土)～9日(月)に長崎市で開催された九州デザインシャレットの開催概要と、参加者によるワークショップの様子を紹介します。

【特徴①】 地域に即した課題設定
まち、人をつなぐ公共空間をデザインする

【特徴②】 多岐にわたる参加者
学生、市民、専門家、行政関係者など、多岐にわたる参加者が一堂に集まり、議論を交わしました。

【特徴③】 実践的なワークショップ
参加者は、実際に現場を視察し、ワークショップを通じて、具体的なデザイン提案を行いました。

【特徴④】 最終発表会
参加者は、最終発表会にて、自分のデザイン提案を発表し、審査員から評価を受けました。

【特徴⑤】 地域貢献
参加者は、ワークショップを通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。

【特徴⑥】 学際的な連携
参加者は、異なる分野の専門家と連携し、多岐にわたる視点から課題を捉え、デザイン提案を行いました。

【特徴⑦】 地域住民の参加
参加者は、地域住民と連携し、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。

【特徴⑧】 地域活性化
参加者は、ワークショップを通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。

【特徴⑨】 地域連携
参加者は、ワークショップを通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。

【特徴⑩】 地域貢献
参加者は、ワークショップを通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。



受講生の声

参加者によるワークショップの様子や、参加者からの感想を紹介します。

参加者A: 今回のワークショップを通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。参加者との連携が非常に良かったです。

参加者B: 今回のワークショップを通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。参加者との連携が非常に良かったです。

参加者C: 今回のワークショップを通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。参加者との連携が非常に良かったです。

参加者D: 今回のワークショップを通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。参加者との連携が非常に良かったです。

参加者E: 今回のワークショップを通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。参加者との連携が非常に良かったです。

参加者F: 今回のワークショップを通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。参加者との連携が非常に良かったです。

参加者G: 今回のワークショップを通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。参加者との連携が非常に良かったです。

参加者H: 今回のワークショップを通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。参加者との連携が非常に良かったです。

参加者I: 今回のワークショップを通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。参加者との連携が非常に良かったです。

参加者J: 今回のワークショップを通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。参加者との連携が非常に良かったです。

最終講評会

参加者によるワークショップの最終発表会の様子を紹介します。

最終講評会の流れ

1. 参加者の発表
2. 審査員の発表
3. 質疑応答
4. 表彰式

審査員の発表

審査員は、参加者の発表を評価し、優秀賞を受賞した参加者を発表しました。

表彰式

優秀賞を受賞した参加者は、表彰状を受け取りました。

質疑応答

参加者は、審査員からの質問に答えることができました。

参加者の感想

参加者は、最終発表会を通じて、地域の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。

参加者によるワークショップの様子

参加者によるワークショップの様子や、参加者からの感想を紹介します。

A 国「はみだんば」

参加者は、国「はみだんば」の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。

B 国「輪とワンド(美野)」

参加者は、国「輪とワンド(美野)」の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。

C 国「まちを賑みなおす」

参加者は、国「まちを賑みなおす」の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。

D 国「まちの中庭」

参加者は、国「まちの中庭」の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。

E 国「まちのセーブポイント」

参加者は、国「まちのセーブポイント」の課題を把握し、具体的なデザイン提案を行いました。



九州デザインシャレット2018報告書

- ・主催 風景デザイン研究会
- ・協力 長崎市
- ・発行 2019年3月
- ・表紙・裏表紙デザイン 池田隆太郎(福岡大学)

本活動は一般社団法人九州地域づくり協会の
人材育成助成を受けて実施しました。

- ・問い合わせ先: 高尾忠志(九州大学)
takaotadashi@icloud.com